

市政記者各位

2026年5月20日
福岡市博物館

特別展「福岡市博物館収蔵 幽霊・妖怪画コレクション」開催！

この夏、ぜひ見ていただきたい展覧会です。

是非ご取材いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

福岡市博物館には日本有数の幽霊・妖怪画のコレクションがあります。その中核をなすのは、日本画家で風俗史の研究者としても知られた吉川観方（よしかわ かんぼう 1894-1979）が収集した膨大な資料に含まれていた幽霊・妖怪画です。福岡市博物館は、このコレクションを収蔵したことをきっかけに、幽霊・妖怪画の充実をはかってきました。その中から、本展では、円山応挙の作と伝わる幽霊図をはじめ、伊藤若冲・河鍋暁斎らが江戸時代に描いた作品など、約100点を展示します。

幽霊や妖怪は、なぜ描かれ、飾られ、大切にされたのでしょうか？ 絵を描いた／みた／コレクションした先人たちの心にふれる展覧会です。絵のみならず、絵を彩る趣向を凝らした表具にもご注目ください。



▲百鬼夜行図巻（部分）／小方守房／江戸時代中期

化け物たちの行進、「百鬼夜行」。平安時代には百鬼夜行に出会うと病気や命までも落とすと恐れられたが、絵画化されると人気を博し、今では国内外に60点以上の図巻が確認される。この絵は、福岡藩の歴代御用絵師のなかでも屈指の実力者・小方守房（おがた もりふさ）が描いた。

▶幽霊図／伝 円山応挙／江戸時代中期

美しい幽霊図を世に広めた円山応挙の作と伝わるもの。表具には幽霊にあわせてスキと秋草があしらわれている。花びらが散らされた一文字（いちもんじ 絵の上下の帯状の部分）も含めて、すべて手書きによる描き表装（かきびょうそう）。





◆朝露・夕霧／吉川観方／昭和 23 年（1948）

朝の化粧をするお岩（右）と夕に蚊やり火をたくお菊（左）。幽霊・妖怪画をあつめた吉川観方が描いたもの。江戸時代の円山応挙にはじまる幽霊画の文化的な帰結点となる逸品。

▶付喪神図／伊藤若冲／江戸時代中期～後期

100 年を経た道具は化けて付喪神（つくもがみ）になるという。さまざまな付喪神が、ちいさな棗や茶筌が化ける瞬間を見守っているかのようだ。作者は伊藤若冲（いとう じゃくちゅう 1716-1800）。福岡市博物館の幽霊・妖怪画コレクションのなかでも人気の高い作品。



開催概要 会期：2026 年 7 月 19 日(日)～9 月 13 日(日)

場 所：福岡市博物館 特別展示室

時 間：9 時 30 分～17 時 30 分（入館は 17 時まで）

※ただし 7 月 24 日～8 月 23 日の金・土・日・祝日と 8 月 13 日（木）は、
トワイライトミュージアムとして 20 時まで（入館は 19 時 30 分まで）

休館日：月曜日 ※ただし 7 月 20 日(月・祝)は開館し、7 月 21 日(火)は休館

観覧料：一般 1500 円（1300 円）高大生 800 円（600 円）

中学生以下無料 （ ）内は前売、20 名以上の団体料金

■お問い合わせ先 福岡市博物館 学芸課…杉山・佐々木 TEL 092-845-5011 FAX 092-845-5019

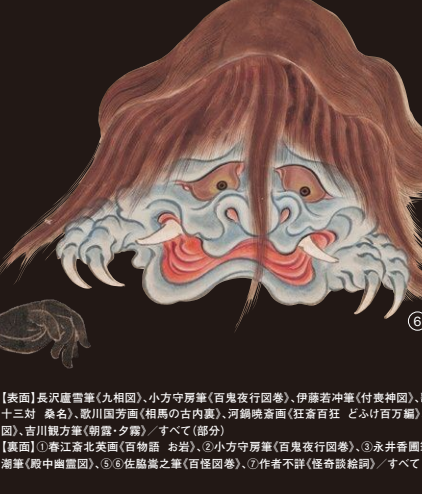
幽霊・妖怪画 コレクション YUREI YOKAI COLLECTION



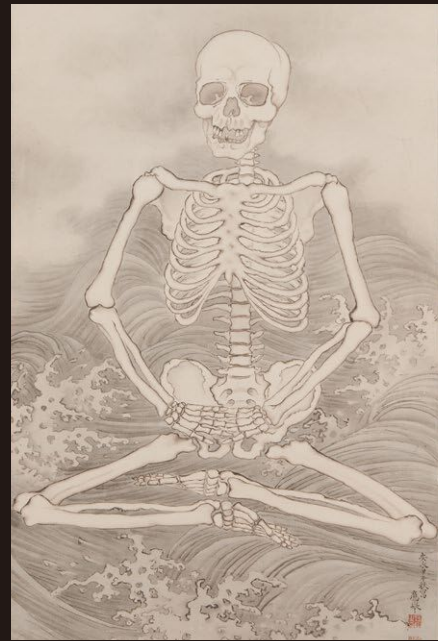
今な心を惹きつけ、魅惑の幽霊・妖怪画の世界

本展は、幽霊や妖怪そのものではなく、幽霊や妖怪の「絵」についてご紹介する展覧会です。不気味で異質な者たちは、なぜ描かれ、飾られ、大切にされてきたのでしょうか。絵にも表具にも趣向が凝らされた珠玉の化物絵はもちろんのこと、これらを描いた／みた／コレクションした人々の姿にも、人間くさい魅力が詰まっています。

福岡市博物館には日本有数の幽霊・妖怪画コレクションがあり、伊藤若冲や河鍋晓斎をはじめとする気鋭の絵師たちの作品を多数収蔵しています。本展では、江戸時代に描かれた所蔵品を中心に、近年の作品を含む選りすぐりの約100点を展示します。会場に並ぶのは、こわい絵ばかりではありません。儂く美しいものからコミカルで可愛いものまで、ラインナップは多種多様です。先人たちの心に触れつつ、彩り豊かな幽霊・妖怪画の世界をお楽しみください。



岸峰筆(地獄太夫幽霊図)(部分)



伝 円山応挙筆(骨相図)(部分)

関連イベント

●夏のこわ〜い怪談落語会

こどもから大人までお楽しみいただける怪談落語をお届けします。
 日時: 7月25日(土) 14時~15時 噺家: 橘家 文太
 会場: 福岡市博物館1階 講堂 定員: 240名
 参加費: 無料(ただし本展観覧券もしくは半券の提示が必要)
 ※事前申込不要 ※13時30分から先着順にてご入場いただけます。



●講演会「みえない恐怖をえがく—こわいものみたさの日本美術史」

日時: 8月2日(日) 14時~15時30分
 講師: 田中 圭子(東京藝術大学大学院美術学 特任准教授)
 会場: 福岡市博物館1階 講堂 定員: 240名
 参加費: 無料(ただし本展観覧券もしくは半券の提示が必要)
 ※事前申込不要 ※13時30分から先着順にてご入場いただけます。



●描ける展覧会! トワイライト模写タイム

会場内のお好きな場所で、作品をじっくり鑑賞しながら模写(スケッチ)をお楽しみいただけます。また当日は講師によるレクチャータイムを設けます。
 日時: 7月26日(日)、8月23日(日) 17時30分~20時 ※途中参加・途中退出可
 講師: 立木 美江(日本画家 / 合同会社 野の画家 代表) ※上記日時に滞在
 会場: 福岡市博物館2階 特別展示室会場内
 ※画材: 鉛筆・色鉛筆可 / イーゼル、折りたたみ椅子持込可



●担当学芸員によるギャラリートーク

展覧会のみどころを担当学芸員が熱弁します。
 日時: 毎週水曜日 14時~15時
 集合場所: 福岡市博物館2階 特別展示室入口
 参加費: 無料(ただし本展観覧券もしくは半券の提示が必要)



●観覧料(常設展示室・企画展示室観覧券付)

一般 1,500円(1,300円) 高大生 800円(600円) 中学生以下無料

※()内は前売料金、20名以上の団体料金 ※学生の方は入場の際、学生証をご提示ください。※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の提示者と介護者1人、および特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証を提示者は観覧無料。※障害者手帳アプリ(マイID)も使用できます。※会期中のチケットは当日料金での販売となります。電子チケット購入の際に各プレイガイドによって各種手数料が発生する場合があります。

チケット販売 アルトネチケット、ローソンチケット(Lコード84070)、セブンチケット等で販売
 前売販売期間 5月22日(金)~7月18日(土)

●交通のご案内

市営地下鉄 博多駅(K11)から約13分、天神駅(K08)から約7分→西新駅(K04)下車(1番出口)徒歩約15分
 西鉄バス 博多バスターミナル1階5・6番のりばから約25分、天神高速バスターミナル前1Aのりばから約20分→博物館北口、福岡タワー南口、博物館南口下車徒歩約5分
 車 都市高速百道ランプより約3分、無料駐車場(130台・大型バス10台・駐車可)
 ご来場の際は、公共交通機関のご利用をお願いします。
 ※会期中は工事のため駐車場の利用台数が限られます。公道上での待機は固くお断りいたします。



お問い合わせ: 西日本新聞イベントサービス TEL 092-711-5491(平日9時30分~17時30分)

福岡市博物館 Fukuoka City Museum
 〈シーサイドももち・福岡タワー南〉
 〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目1-1
 https://museum.city.fukuoka.jp
 TEL:092-845-5011 FAX:092-845-5019

【表面】長沢匡雪筆(九相図)、小方守房筆(百鬼夜行図巻)、伊藤若冲筆(付喪神図)、歌川国芳画(東海道五十三村 桑名)、歌川国芳画(相馬の宮内裏)、河鍋晓斎画(狂言百狂 どぶけり百編)、伝 円山応挙筆(幽霊図)、吉川観方筆(朝露・夕露) / すべて(部分)
 【裏面】①春江斎北英画(百物語 お岩)、②小方守房筆(百鬼夜行図巻)、③永井香蘭筆(妖怪図)、④矢野夜潮筆(殿中幽霊図)、⑤⑥在崎堂之筆(百怪図巻)、⑦作者不詳(怪奇談絵詞) / すべて(部分)